

事業番号	1	0	2
実施計画事業			
実施計画事業以外の事業	○		

令和元年度 事務事業評価シート

1. 事業の概要

事務事業名	小牧市国際交流協会助成事業				担当部	市民生活部					
事業期間	平成6年度 ~ 令和2年度以降				担当課	多文化共生推進室					
新基本計画 (平成26年~平成30年)	基本施策	18	展開方向	5							
予算区分	一般会計	款	07 商工費	項	01	目	04	大	04	中	02

2. 実施状況

○目的・成果

小牧市の国際交流と多文化共生の推進のため、小牧市国際交流協会に対し、事業の推進と組織の運営を行えるよう継続して支援を行う。

○対象

小牧市国際交流協会及びその会員、小牧市国際交流協会にかかわる市民

○手段

- ・小牧市国際交流協会補助金(人件費補助(専従職員4名分)+事業費補助(協会事業費))
- ・小牧市国際交流協会 平成30年度の主な事業(複数回の事業でも同じ対象者を想定している場合は1回とカウント)
- 1.国際交流事業 ワールドレストラン、スポーツ交流会、国際交流ふれあいフェスタ、料理教室等(5事業6回)
- 2.情報収集および提供事業 機関紙「つばさ」の発行(年2回各1,500部発行)等
- 3.啓発および知識の普及事業 国際理解講座、外国語講座等(3事業7回)
- 4.交流団体等支援事業 助成金の交付(2団体)
- 5.生活しやすい街づくりの推進事業 日本語教室(1事業30回)
- 6.自主グループ活動の推進 漢字教室等(4団体を支援)
- 7.英語教育支援事業 英語基礎講座(2事業4回)
- 8.多文化共生事業 日本文化教室、防災訓練、ジュニア企画、プレスクール等(5事業9回)
- 9.その他 災害時外国人支援ボランティア養成講座の開催、「ええがね!こまき」への参加等

3. 総合診断

事業費	項目	単位等	H27	H28	H29	H30	R1	
直接経費	決算額	財源	一般財源	千円	16,200	15,400	16,000	15,783
			国・県支出金	千円	0	0	0	0
			その他	千円	0	0	0	0
		計(A)	千円	16,200	15,400	16,000	15,783	
	対前年比	%	-	95.1%	103.9%	98.6%		
	(当初)予算額	千円	16,200	15,400	16,000	16,000	16,200	
人件費	正職員	人	0	0	0	0		
	正職員(平均人件費)	千円	0	0	0	0		
	その他職員	人	4	4	4	4		
	その他職員(時給×年間時間)	千円	9,443	9,443	9,443	9,443		
	計(B)	千円	9,443	9,443	9,443	9,443		
事業費合計(C=A+B)		千円	25,643	24,843	25,443	25,226		
指標	成果指標	多文化共生を理解する講座や事業などへの年間参加者数	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
			実績	1,921	2,001	2,071	1,985	
		目標						
		実績						
	活動指標	多文化共生を理解する講座や事業などの開催回数	目標	16	16	16	16	16
			実績	14	14	14	14	
		目標						
		実績						
@事業費	受益者数(a)	人	915	954	980	950		
	受益者あたり事業費(b=C/a)	円	28,026	26,041	25,963	26,554		

診断結果	改善点は見られない	改善点が若干見られる	○	大いに改善すべき
	<p>○講座や事業などの活動回数については、企画を行ったものの台風等の影響により中止となる場合もあり、目標を達成することができていない。</p> <p>○講座や事業などの年間参加者数は概ね横ばいであるが、日本語教室など、教室に入りきらないほど人気のある事業もあり、このような事業をさらに拡充していく必要がある。また、その他の事業についても、運営にかかわるボランティアの意見を参考にしつつも、スクラップアンドビルドによる新たな事業の構築を進め、年間参加者数の増を見込んでいく必要がある。</p>			

4. 総合評価

事業の方向性	拡大	対象の拡大や手段の充実等により、事業のボリュームを拡大すべきもの				
削減額・対象	事務事業評価による額	千円	予算区分	節	節	節
評価結果	<p>○事業のスクラップアンドビルドにより、事業費の増加を抑えつつ、人気のある事業を増やし、参加者の増を図る。</p> <p>○ただし、日本語教室については、教室に入りきらないような状況を改善するため、令和元年度に新たな講師の養成と3期(令和2年1月)からクラスを増設するよう、予算増を図っている。令和2年度には、令和元年度3期に開催するクラス数を、1期及び2期も維持するため、その分については費用増を見込む。</p>					